

ID-Link を利用した医療連携

○小山敏樹(コヤマ トシキ)

手稲前田腎泌尿器科 院長

【緒言】

当院は、北海道札幌市手稲区の前田地区で開業されたメディカルモール「メディモティネ」で2018年6月に開院した泌尿器科の無床診療所である。電子カルテシステムには日立ヘルスケアシステムズ㈱の「Hi-SEED W3 EX」を採用しており、開院当初より ID-Link Store Client サービスを導入し、また手稲溪仁会病院と CT や MRI 等の検査機器の共同利用契約を締結した。検査画像等のデータは ID-Link を介して即座に授受が可能であり、診療上大変有用である。

今回、ID-Link を用いて手稲溪仁会病院との病診連携がスムーズに行われた症例を供覧するとともに、その利便性等につき報告する。

【症例 1】

尿路結石症（左腎癌術後） 70 歳 男性

手稲溪仁会病院で 09 年に左腎癌で腎部分切除術、14 年に左腎結石で対外衝撃波碎石術 (ESWL) 後、18 年 7 月からは半年毎の CT の共同利用で当院にて Follow 中だったが、右腎結石の増大あり、19 年 11 月手稲溪仁会病院で ESWL を施行した。現在腎癌は NED で、残存結石とともに当院にて年一回の CT follow 中である。

【症例 2】

前立腺癌 57 歳 男性

18 年 10 月の検診にて PSA5.5 で 19. 1. 10 当院初診、1. 17 共同利用による MRI 撮像で前立腺左葉に陽性所見あり、手稲溪仁会病院を紹介。2. 14 経直腸式前立腺生検で診断確定、全身検索で限局性癌の診断にて 4. 17 ダビンチを用いたロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘出術施行。退院後は再び当院通院中で、現在 NED で 3 か月毎の PSA 採血 Follow 中である。

【考察】

ID-Link サービスは検査機器共同利用等を通じての画像等のデータの迅速な共有ができ、電子カルテ内のアイコンから起動も簡単で、提携先の手稲溪仁会病院の泌尿器科医や病棟スタッフ等とも情報共有を図ることが可能である。また患者様には、手稲溪仁会病院での検査終了後にそのまま当院を受診していただき、直接データを供覧しての IC が可能で、データを電子カルテ内に保存する手間もなく、保管場所の必要な CD-ROM 等のメディアも不要で、非常に有用なツールである。その反面、検査時には患者様に必ず診療情報提供書を持参させなければならない等、手続きがやや煩雑であるのに加え、電子カルテと ID-Link を構築する初期費用が開業医にとって割高であったことがデメリット（負担感）と言える。